

陸連時報 三

2014
平成26年 2 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2014年度主要競技会日程(案).....	230
年頭にあたって(会長 横川浩).....	231
理事会報告.....	232
強化関連情報(強化委員会).....	234
2013年度全国強化責任者会議報告	
2013年度全国普及育成担当者会議報告(普及育成委員会 森健一)	
第1回世界リレー選手権大会(2014/ナッソー)代表選手選考要項	
第17回アジア競技大会(2014/仁川)代表選手選考要項(T&F種目)	
第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)代表選手選考方針	
第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)代表選手選考方針(T&F・競歩種目)	
第98回日本陸上競技選手権大会(2014/福島)参加資格	
国民体育大会(2016/岩手・2017/愛媛)開催種目	
第2回ユースオリンピック競技大会・アジア地域予選(2014/バンコク)日本代表選手選考要項.....	238
“日清食品カップ”第16回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会報告 (普及育成委員会 井筒紫乃).....	239
日本陸連アスレティック・アワード2013報告(事務局).....	240
国際陸連(IAAF)カOUNCIL会議報告(国際委員長 田中克之).....	242
大会観戦ガイド.....	243
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2014年度主要競技会日程(案)

*主要競技会日程は、2014年3月開催の理事会で最終承認されます。

	主催大会			国際大会		
	期 日	大会名	場 所	期 日	大会名	場 所
4月	20(日)	98 日本選手権50km競歩	石川			
	20(日)	16 長野マラソン	長野	28(月)	アジアGP	
5月	11(日)	ゴールデングランプリ	国立(東京)	2(金)	アジアGP	
				5(月)	アジアGP	
	31(土)~6/1(日)	98 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	3(土)~4(日)	26 ワールドカップ競歩	太倉(中国)
	31(土)~6/1(日)	30 日本ジュニア選手権混成	長野市営(長野)	21(水)~22(木)	2 ユースオリンピック・アジア地域予選	バンコク(タイ)
6月		60 全日本中学通信陸上	各地			
	6(金)~8(日)	98 日本陸上競技選手権	とうほう・みんなのスタジアム(福島)	12(木)~15(日)	16 アジアジュニア陸上競技選手権	台北(台湾)
7月	30(水)~8/3(日)	67 全国高校陸上	小瀬(山梨)	22(火)~27(日)	15 世界ジュニア陸上競技選手権	ユージーン(アメリカ)
8月	8(金)~10(日)	49 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)			
	20(水)~21(木)	49 全国高専陸上	宿毛(高知)	12(火)~27(水)	2 ユースオリンピック	南京(中国)
	17(日)~20(水)	41 全国中学陸上	丸亀(香川)			
	22(金)~23(土)	30 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)			
	30(土)~31(日)	2 全国高校陸上選抜	長居第2(大阪)	23(土)~29(金) ※全体会期	21 日・韓・中ジュニア交流競技会	北上(岩手)
9月				13(土)~14(日)	2 コンチネンタルカップ	マラケシュ(モロッコ)
				19(金)~23(祝・火)	18 アジアマスターズ	北上(岩手)
				27(土)~10/3(金)	17 アジア競技大会	仁川(韓国)
10月	3(金)~5(日)	30 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)			
	3(金)~5(日)	8 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)			
	18(土)~22(水)	69 国民体育大会	県立総合(長崎)			
	31(金)~11/2(日)	98 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)			
	31(金)~11/2(日)	45 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)			
11月	16(日)	6 横浜国際女子マラソン	神奈川			
	24(祝・月)	'14 国際千葉駅伝	千葉			
12月	7(日)	68 福岡国際マラソン	福岡			
	13(土)~14(日)	17 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)			
	14(日)	22 全国中学駅伝	山口			
	21(日)	65 26 全国高校駅伝	京都			
2015 1月	11(日)	33 都道府県対抗女子駅伝	京都			
	18(日)	20 都道府県対抗男子駅伝	広島			
	25(日)	34 大阪国際女子マラソン	大阪			
2月	7(土)~8(日)	15 日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)			
	8(日)	50 千葉国際クロスカントリー	昭和の森(千葉)			
	15(日)	98 日本選手権男女20km競歩	兵庫			
	21(土)	29 福岡国際クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)			
	22(日)	'15 東京マラソン	東京			
3月	1(日)	70 びわ湖毎日マラソン	滋賀			
	8(日)	'15 名古屋ウィメンズマラソン	愛知			
	15(日)	39 全日本競歩能美	石川	15(日)	'15 アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)
				28(土)	41 世界クロスカントリー	貴陽(中国)

陸連時報2013年11月号掲載からの変更点には■が引いてあります。

年頭にあたって



公益財団法人 日本陸上競技連盟
会長 横川 浩

新年、明けましておめでとうございます。二〇一四年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りまして、二〇二〇年、第三二回オリンピック競技大会・第一六回パラリンピック競技大会の開催都市として「東京」が決定したことは、日本に活力をもたらすとともに、多くの子どもたちをはじめ、国民がスポーツへの関心を持つきっかけになり、我が国におけるスポーツ界の新たな一歩が始まったと言えます。開催国・日本の活躍は大会を盛り上げる最大の要因であり、競技団体としては、これまで以上のエネルギーを競技力の向上に努めてまいりたいと思います。

昨夏の世界陸上競技選手権大会には、世界選手権初出場の一五名を含む、四四名の日本代表選手を派遣し、メダラー・入賞7を獲得しました。数年来のジュニア・ユース世代の強化・育成が徐々に実を結び始め、世界ジュニア・世界ユース選手権等で活躍する選手が日本のトップアスリートに成長し、世代交代が進みつつあります。若い世代を育て世界の舞台へ飛躍させるため、国際的な競争力を身につけさせる施策の構築が必要であると考えております。

また、昨今子どもたちの体力低下など、スポーツ離れが盛んに言われております。スポーツの基本となる陸上競技の果たす役割として、地域での普及・育成活動をこれまで以上に多角的に行うとともに、子どもたちが陸上競技に対する興味・関心を持ち、そして気軽に陸上競技を始めることが出来るような環境をつくっていくことも大切であると考えます。加えて、子どもたちの目標の達成のため効果的にサポートを行う指導者の育成も必要であります。素晴らしい指導者との出会いは、真のスポーツの楽しさを知るきっかけを作るものであり、重要な責務として指導者育成に取り組んでまいりたいと思います。

スポーツ界を取り巻く環境は、社会経済ともきわめて密接に関連しており、厳しさを含みながら大きく変化をしております。もちろん、陸上競技界としてその例外ではなく、むしろこの大きな変化に機敏に対応し、乗り越え、スポーツ界を牽引する役割を果たしていかなければなりません。オリンピック・パラリンピック開催の決定を契機に、シンボリックに施策を打ち出し、それらを成し遂げていく組織の充実、地域や関連団体との連携をより進め、多くの関係者とともに歩み、取り組んでまいる所存ですので、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしましてご挨拶いたします。

理事会報告

第18回理事会

日時：2013年12月17日（火）13時00分～15時22分

場所：小田急第一生命ビル11階会議室

【協議事項】

1. 2014年度主要競技会日程

尾縣専務理事より、9月の理事会以降に日程などが決まった競技会の説明があった。

- ・ 5/11（日）ゴールデングランプリ（国立・東京）
- ・ 8/20（水）～21（木）全国高専陸上（宿毛・高知）
- ・ 11/24（祝・月）国際千葉駅伝（千葉）
- ・ 2/8（土）～9（日）日本ジュニア室内（大阪城ホール・大阪）
- ・ 5/21（水）～22（木）ユースオリンピック・アジア地域予選（バンコク・タイ）
- ・ 6/12（木）～15（日）アジアジュニア選手権（台北・台湾）
- ・ 9/27（土）～10/3（金）アジア競技大会（仁川・韓国）

2. 第1回世界リレー選手権大会（2014/ナッソー）の代表選手選考要項

原田強化委員長より次のように説明があり承認を得た。

- ・ 9月の理事会で編成方針は承認済み。
 - ・ 12/2（月）付発表のナショナルリレーチームから、日本グランプリシリーズ、ゴールデングランプリ、出雲陸上競技大会の結果を見て派遣選手を選考する。
- 風間事務局長より、ナショナルリレーチームの名称の公募を行うことの説明があった。

※代表選手選考要項の詳細は、強化関連情報を参照ください。

3. 第17回アジア競技大会（2014/仁川）の代表選手選考要項（T&F種目）

原田強化委員長より次のように説明があり承認を得た。

- ・ この競技会は、メダルの獲得を中心に置きつつ、リオデジャネイロに向けた強化戦略として、若手の育成も念頭においた選考要項とした。
- ・ 選考基準は、IAAFのエントリー方法変更で参加標準記録が一本化されることもあり、本連盟独自の派遣設定記録を設定して、記録の優先順位を高くした。
- ・ モスクワ世界選手権でも同様に派遣設定記録を設定したが、選手は目標値と捉え、高い水準の記録を超える選手が数多く見られた。記録重視の方針は、リオデジャネイロオリンピックに向けて継続してゆく。
- ・ 派遣設定記録Aは世界ランキング12位相当、派遣設

定記録Bは世界ランキング32位相当とした。

- ・ 派遣設定記録の有効期間は2013年4月1日～日本選手権の最終日までとした。
 - ・ 第1優先は、派遣設定記録Aを満たして日本選手権8位以内の競技者とした。
 - ・ この競技会の優勝者に対して世界選手権の内定付与を検討しているが、2015年の北京世界選手権の参加資格が公表され次第確定させたい。
- ※代表選手選考要項の詳細は、強化関連情報を参照ください。

4. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015/北京）の代表選手選考方針（T&F・競歩種目）

原田強化委員長より次のように説明があり承認を得た。

- ・ この選考方針では、どのような選手が優先的に選ばれるかを早期に示し、選手の目標を明確にすることが目的である。選考要項は、IAAFの参加資格が公表されてから決定する。
- ・ 選考の概略は、次の通り。

- ①日本選手権8位以内で派遣設定記録Aを満たした競技者
- ②日本選手権の優勝者
- ③アジア競技大会（2014/仁川）の優勝者
- ④アジア選手権大会（2015/武漢）の優勝者で派遣設定記録Bを満たした競技者
- ⑤日本選手権3位以内の競技者

- ・ リレー種目は、第2回世界リレーに派遣した選手から選考する。

- ・ 競歩は、アジア競技大会（2014/仁川）の優勝者を第1優先で選考する。

※代表選手選考方針の詳細は、強化関連情報を参照ください。

5. 第31回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）の代表選手選考方針（T&F・競歩種目）

原田強化委員長より次のように説明があり承認を得た。

- ・ 現体制の集大成となるリオデジャネイロオリンピックは、世界選手権までの選考方法を踏襲したい。
 - ・トラック&フィールド種目の選考概略は、次の通り。
- ①北京世界選手権大会の8位以内の最上位者。
 - ②日本選手権8位以内で派遣設定記録Aを満たした競技者
 - ③日本選手権の優勝者
 - ④日本選手権3位以内の競技者

- ・ リレー種目は、第3回世界リレーに派遣した選手から選考する。

※代表選手選考方針の詳細は、強化関連情報を参照ください。

6. 第98回日本陸上競技選手権大会（2014/福島）の参加資格

原田強化委員長より次のように説明があり承認を得た。

- ・ 昨年の日本選手権の参加資格と大きな変更点はなし。
- ・ 参加標準記録は、今年度の日本ランキング記録を元に再設定した。

※詳細は強化関連情報を参照ください。

7. 国民体育大会（2016/岩手・2017/愛媛）の実施種目

原田強化委員長より次のように説明があり承認を得た。

- ・ 11月26日の全国強化責任者会議で加盟団体の意見も加味して、開催種目を決定した。

※詳細は強化関連情報を参照ください。

8. 2020強化普及オリンピック特別対策プロジェクト

尾縣専務理事より次のように説明があった。

- ・ 2016リオデジャネイロオリンピックに向けた強化施策とは別に、2020東京オリンピックに照準を合わせた、強化及び普及育成施策として本プロジェクトを立ち上げることとなった。
- ・ 現在の中学生から大学生がターゲットエイジになることから、強化育成部長の山崎強化副委員長を本プロジェクトのメイン担当とする。

山崎強化副委員長より、次のように2020強化普及ロードマップの説明があり、方針について承認を得た。

- ・ まず、一步を踏み出す
- ・ 本プロジェクトとしての2020東京オリンピックの目標は「金1、メダル総数5」「入賞7（メダリストを含まず）」としたい
- ・ 1964年東京オリンピックでの問題点とレガシーの再分析
- ・ 指導者が国際的指導力をつける
- ・ 国際競技力向上の強化システムの構築
五輪の柱：①強化組織の抜本的改変 ②種目、競技トランスファー促進 ③強化情報戦略の強化と拡充 ④科学サポートの徹底的活用 ⑤指導者養成の強化
- ・ 強化委員会の組織改正
- ・ 専任コーディネーター制の確立
- ・ 各地にタレントマネジャーの設置

9. 審判員カードの販売価格

尾縣専務理事より説明があり、2014年度から新しくなる公認審判員証の販売価格が、「500円/枚（税抜）」に決定した。

10. 後援競技会規程の改定

尾縣専務理事より説明があり、第26条の競歩競技会の後援名義使用料は、従前50万円から変更後10万円になることが承認された。

尚、第20条の加入する保険の種類について、再度検討することとなった。

【報告事項】

1. 2014年度強化競技者の指定

原田強化委員長より、トラックシーズンの終了に伴い、来年度の強化競技者ゴールド2名、シルバー9名を発表した。

尚、マラソンと競歩は、シーズン終了後に発表予定。

2. スポーツ活動支援制度の申請

原田強化委員長より、2014年度スポーツ活動支援制度の対象者が、山元隼選手（中京大学）であることが報告された。

3. 2014年度後援競技会

尾縣専務理事より、11月の後援競技会認定委員会で決定した、2014年7月から9月の後援競技会と2014年度から使用する主催競技会と後援競技会のロゴが報告された。

- ・ 第27回南部忠平記念陸上競技大会
- ・ 第39回蔵王坊平クロスカントリー大会
- ・ 2014北海道マラソン
- ・ 第35回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
- ・ 第18回アジアマスターズ陸上競技選手権大会
- ・ 第54回実業団・学生対抗陸上競技大会

4. 第13回アジアクロスカントリー選手権大会（2014/福岡）の代表選手選考要項

原田強化委員長より、福岡国際クロスカントリーと同時開催のアジアクロスカントリー選手権大会の代表選手選考要項が報告された。

- ・ 代表選手の選考については、千葉国際クロスカントリーと2013年度の主要競技会の結果から選考される。

5. 第2回ユースオリンピック競技大会（2014/南京）の概要

原田強化委員長より、南京で開催される第2回ユースオリンピック競技大会の概要が報告された。

- ・ アジア地域予選の成績を基に、ユースオリンピックの代表が指定される。
- ・ アジア地域予選の選考要項は、強化一任とし陸連時報で発表する。

6. 第6回東アジア競技大会（2013/天津）の結果報告とパリ駅伝の結果報告

- ・ アジア競技大会のリザルトとパリ駅伝の結果報告書が配布された。

7. JTOとJRWJの新規認定

吉儀競技運営委員長より、新規のJTO資格取得者10名とJRWJ資格取得者5名が報告された。

その他

横川会長より、新国立競技場の建設について報告があった。

- ・ 常設の補助競技場を要望してきたが近隣地所に建設できる場所が無いことから、2020年東京オリンピックでは仮設を受け入れざるを得ない。
- ・ 将来行われるであろう、神宮外苑地区の再開発時に期待したい。

強化関連情報

強化委員会

2013年度全国強化責任者会議報告

日時：2013年11月26日（火）

13時00分～16時00分

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター大研修室

出席者：尾縣専務理事、原田強化委員長、強化副委員長、強化委員会幹事、協力4団体強化担当者、都道府県陸上競技協会強化責任者

〈議事〉

今年度は、全国強化責任者会議と全国普及育成担当者会議を同時に開催し、はじめの部分は合同会議を行い、日本陸連の強化及び普及育成に関する理念を共有することとした。

1. 強化・普及育成合同会議

(1) 競技者育成プログラム

1) 強化関連事項 原田強化委員長

リオデジャネイロオリンピックに向けた選考の方針の説明があった。モスクワ世界選手権でも取り入れられた派遣設定記録について、今後も踏襲する旨の説明があり、より高いレベルの記録を競技者に求める姿勢を示した。

2) 普及関連事項 繁田普及育成委員長

専門化するタイミングなどの日本代表選手の例を挙げ、日本陸連として考えるタレント発掘、種目トランスファーについての説明があった。

(2) 2020強化普及オリンピック特別対策プロジェクト

尾縣専務理事より、プロジェクト立ち上げの経緯説明があり、プロジェクトのターゲットエイジが中学生から大学生ということから、強化育成部長でもある山崎強化副委員長をメイン担当としてこのプロジェクトを進める旨の説明があった。

山崎強化副委員長より、2020年に開催される東京オリンピックに向けた強化・普及育成方針を示し、「一步を踏み出す」という考えのもと、都道府県の強化及び普及育成担当者と連携しながら、オリンピックの成功につなげたいという旨の説明があった。

2. 全国強化責任者会議

(1) 2013年度上期強化活動報告

1) シニア関係国際大会の活動報告

原田強化委員長より、8月にモスクワ（ロシア）で開催された世界選手権に向けたナショナルチームの取り組み、及び大会結果に対する報告があった。

2) ジュニア関係国際大会の活動報告

山崎強化副委員長より、7月にドネツク（ウクライナ）で開催された世界ユース選手権の結果及び強化育成部の取組みについて報告があった。

(2) 2014年度主要競技会日程

事務局より、2014年度主要競技日程を報告した。

(3) 強化育成事業及び各種国際大会の選考基準について

山崎強化副委員長より、下記3大会の選考方針を説明した。

- ・ 第2回ユースオリンピック・アジア地域予選（2014／バンコク）
- ・ 第16回アジアジュニア選手権大会（2014／台北）
- ・ 第15回世界ジュニア選手権大会（2014／ユージーン）

(4) 国民体育大会（2016年第71回岩手・2017年第72回愛媛）について

1) 開催種目について

本越強化委員会幹事より、開催種目について都道府県からの質問要望を受けた上で、強化委員会で検討し、最終的に12月の理事会で承認を得る旨の説明があった。

2) エントリーについて

事務局より、2014年度第69回長崎大会の参加申込締め切りについて、および国民体育大会独自の参加資格について説明した。

(5) 味の素ナショナルトレーニングセンターの利用について

事務局より、味の素ナショナルトレーニングセンターの都道府県強化事業の利用状況の報告や、今後の利用に関する情報提供を行った。

3. グループディスカッション

今年度より、いくつかの議題に関するグループディスカッションを行った。山崎強化副委員長から説明があった、2020強化普及オリンピック特別対策プロジェクトでの検討課題でもある下記の4つの議題について、出席者の希望をもとにグループ分けをし、45分程度ディスカッションを行った。

- ① 東京オリンピックで金メダルを獲るための強化策
- ② 種目トランスファー（種目転換）を促進する方法
- ③ 効果的なタレント発掘の在り方
- ④ 育成段階における実施種目の適正化について

最後に山崎強化副委員長から、各グループからでた各都道府県の現状や課題を、2020強化普及オリンピック特別対策プロジェクトの具体的な施策に反映させて、東京オリンピックに向けて一体になり強化施策を進められるよう、都道府県強化と連携していきたいという旨の説明があった。

第2回ユースオリンピック競技大会・アジア地域予選（2014／バンコク）日本代表選手選考要項

1. 編成方針

ユースオリンピックで活躍できる競技者から編成する。オリンピックを十分理解し、国際的競技者としての自覚と行動がとれるような競技者を育成する。

2. 選考競技会

- ・ 2013年度本連盟主催及び後援競技会

3. 選考基準

- (1) オリンピック育成競技者
- (2) 強化育成部員が推薦し、本大会で活躍が期待される競技者
- (3) 育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数格差がないようする。

4. 選考方法

以下の優先順位に基づいて選考する。

- (1) オリンピック育成競技者
- (2) 強化育成部員が推薦した競技者から、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
- (3) (1) から (2) の方法で当てはまらない該当競技者がい

た場合は、専務理事および強化委員会幹部と協議する。

5. 補足

- (1) 対象者は1997年、1998年生まれ。
- (2) 本大会は、2014年5月20日から21日までバンコク(タイ)で開催される。
- (3) エントリールールの詳細は、大会組織委員会からの発表後に公表する。

2013年12月17日開催の第18回理事会において承認の第1回世界リレー選手権大会(2014/ナッソー)代表選手選考要項、第17回アジア競技大会(2014/仁川)代表選手選考要項(トラック&フィールド種目)、第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)代表選手選考方針(トラック&フィールド種目及び競歩種目)、第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)代表選手選考方針(トラック&フィールド及び競歩種目)、第98回日本陸上競技選手権大会(2014/福島)参加資格および国民体育大会(2016/岩手・2017/愛媛)開催種目は下記の通り。

第1回世界リレー選手権大会(2014/ナッソー)

代表選手選考要項

期日: 2014年5月24日(土)~25日(日)

場所: ナッソー(バハマ)

種目: 男女4×100mリレー、男女4×400mリレー、男女4×200mリレー、男女4×800mリレー、男女4×1500mリレー

1. 編成方針

第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)(以下「北京世界選手権」という)の出場権の早期獲得を第一目標とする。

また、第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)に向けた強化戦略上必要とされるチームを派遣する。

2. 代表チーム派遣基準

次の条件を満たした場合、代表チームを派遣する。

(1) 男子4×100mリレー

- ・国際陸上競技連盟(以下「IAAF」という)が定める参加標準記録を満たす。
- ・IAAFワールドリストから選出される。

(2) 男子4×400mリレー、女子4×100mリレー、女子4×400mリレー

- ・IAAFが定める参加標準記録を満たす。
- ・IAAFワールドリストから選出された場合は、強化委員会にて派遣の有無を決定する。

(3) 男女4×200mリレー、男女4×800mリレー、男女4×1500mリレー

- ・代表チームの派遣は、参加標準記録がないことから、強化委員会にて強化戦略上必要と判断した場合に行う。

表1 IAAF参加標準記録

種目	男子	女子
4×100mリレー	38" 90	43" 80
4×400mリレー	3' 04" 10	3' 33" 00
4×200mリレー	なし	なし
4×800mリレー	なし	なし
4×1500mリレー	なし	なし

*参加標準記録で「24ヵ国」に満たなかった場合は、IAAFワールドリストのランキング上位国から選出される。

3. 代表選手選考基準

原則、男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーの代表選手は、ナショナルリレーチームに属する競技者から選考される。ナショナルリレーチームの編成は、別途定める。

ナショナルリレーチームからの代表選手選考は、次の参考競技会の結果や、トレーニング状況から総合的に判断して強化委員会にて決定する。

(1) 2014日本グランプリシリーズ

(兵庫・和歌山・広島・静岡)

(2) ゴールデングランプリ陸上(2014)

(3) 第68回出雲陸上競技大会(2014)

4. 選考方法

選考基準に則り全ての参考競技会終了後、選考委員会において選考する。

5. 補足

(1) 世界リレー選手権大会において8位以内のリレー種目(男女4×100m及び男女4×400m)は、第17回アジア競技大会(2014/仁川)(以下、仁川アジア大会)にエントリーする。

(2) 仁川アジア大会の代表選手は、リレー種目の特性から、世界リレー選手権大会の男女4×100m及び男女4×400mに派遣された競技者の中から選考される。

(3) 今後、IAAFが定める北京世界選手権の参加資格によっては、本大会の派遣を見送ることがある。

(4) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

第17回アジア競技大会(2014/仁川)

代表選手選考要項(トラック&フィールド種目)

期日: 2014年9月27日(土)~10月3日(金)

場所: 仁川(韓国)

1. 編成方針

日本オリンピック委員会の選手団編成方針、派遣枠に準じ、第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)(以下「リオデジャネイロオリンピック」という)へ向けた重要な国際競技会と位置づけ、国際競技力の向上を期待される競技者で選手団を編成する。

2. 選考競技会

(1) 2014日本グランプリシリーズ

(兵庫・和歌山・広島・静岡)

(2) ゴールデングランプリ陸上(2014)

(3) 第98回日本陸上競技選手権大会・混成競技

(2014/長野)

(4) 第98回日本陸上競技選手権大会(2014/福島)

(5) 第1回世界リレー選手権大会(2014/ナッソー)

※男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーのみ対象

3. 選考基準

(1) 有効期間内に派遣設定記録A^{*1}を満たし、選考競技会(3)(4)の8位以内で最上位の競技者

(2) ①~③のいずれかの条件を満たした競技者から、①から③の優先順位で選考する。

1) 選考競技会(3)(4)で6位以内

2) 選考競技会(1)(2)で日本人2位以内

3) 選考競技会(5)に日本代表として派遣され、選考競

表2 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10" 01	10" 14	100m	11" 09	11" 27
20" 28	20" 50	200m	22" 60	23" 00
44" 89	45" 50	400m	50" 59	51" 78
1' 43" 98	1' 45" 49	800m	1' 58" 86	2' 00" 43
3' 32" 95	3' 35" 49	1500m	4' 02" 15	4' 05" 96
13' 06" 63	13' 22" 26	5000m	15' 06" 34	15' 25" 34
27' 31" 43	28' 07" 96	10000m	31' 23" 17	32' 35" 86
8' 14" 86	8' 25" 05	3000mSC	9' 26" 42	9' 41" 41
13" 30	13" 51	110mH/ 100mH	12" 75	13" 00
48" 74	49" 53	400mH	54" 66	56" 07
8m26	8m10	走幅跳	6m84	6m65
17m21	16m86	三段跳	14m48	14m15
2m31	2m28	走高跳	1m95	1m92
5m73	5m61	棒高跳	4m63	4m39
20m87	20m17	砲丸投	19m07	17m43
66m53	64m34	円盤投	63m94	60m30
79m11	76m07	ハンマー投	73m39	69m91
84m32	81m71	やり投	63m34	60m05
8311	7991	10種競技/ 7種競技	6325	6006

技会(4)で8位以内

【優先順位】

- ①有効期間内に派遣設定記録B^{**2}を満たした競技者
- ②強化育成部から推薦された競技者
- ③本大会でメダル獲得を期待される競技者
- (3)リレー種目の代表選手は、種目の特性から選考競技会(5)に派遣された競技者の中から選考される。

4. 選考方法

- (1)選考基準(1)による選考は、日本選手権のその種目の決勝終了時点で内定する。
- (2)選考基準(2)(3)による選考は、全ての選考競技会終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。

5. 補足

- (1)派遣人数枠及び代表選手の正式決定は、派遣団体である公益財団法人日本オリンピック委員会により決定される。
- (2)選考基準の派遣設定記録の有効期間は、2013年4月1日から選考競技会(4)の最終日までとする。
- (3)本大会の個人種目優勝者に対する、第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)の内定条件は、国際陸上競技連盟の参加基準公表後に決定する。
- (4)リレー種目については、個人種目のエントリー状況などから総合的に判断し、派遣を検討する。
- (5)本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
 - ※1 派遣設定記録A:本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録
 - ※2 派遣設定記録B:本連盟が定める、世界ランキング32位相当の記録

第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)

代表選手選考方針(トラック&フィールド種目及び競歩種目)

期日:2015年8月22日(土)~8月30日(日)

場所:北京(中国)

公益財団法人日本陸上競技連盟(以下:本連盟)は、2016年に開催される第31回オリンピック競技大会(以下、リオデジャネイロオリンピック)に向けた強化を推進し目標を達成するために、リオデジャネイロオリンピック前年に開催される第15回世界陸上競技選手権大会(以下、北京世界選手権)を最重点国際競技会と位置づけ、下記の選考方法で選考される日本代表選手で臨む決意である。

1. 選考方法

北京世界選手権の参加資格^{*1}を有した競技者から、次の優先順位で代表選手を選考する。下記以外の選考及び派遣設定記録は、選考要項作成の段階で追記する。

(1)トラック&フィールド種目

- ①指定期間内に派遣設定記録A^{**2}を満たし、第99回日本陸上競技選手権大会(以下「日本選手権」という)で8位以内の競技者
- ②日本選手権優勝者
- ③第17回アジア競技大会(2014/仁川)(以下「仁川アジア大会」という)の個人種目優勝者
- ④第21回アジア選手権大会(2015/武漢)の個人種目優勝者で、派遣設定記録B^{**3}を満たした競技者
- ⑤日本選手権3位以内の競技者

※ただし、④・⑤については、それぞれの大会期間が決定した時点で、変更される可能性がある。

(2)リレー種目

代表選手は、種目の特性から、第2回世界リレー選手権大会(2015/ナッソー)に派遣された競技者の中から選考される。

(3)競歩種目

- ①仁川アジア大会の優勝者
 - ②指定期間内に派遣設定記録Aを満たし、指定選考競技会で優勝した競技者
 - ③指定選考競技会3位以内の競技者
- ※日本選手権以外の選考競技会に関する条件は、選考要項作成の段階で追記する。

2. 補足

今後、国際陸上競技連盟(IAAF)が定める参加資格に準じて、選考方法を変更することがある。

- ※1 参加資格:IAAFが定めた参加標準記録等
- ※2 派遣設定記録A:本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録(有効期間は別途指定)
- ※3 派遣設定記録B:本連盟が定める、世界ランキング32位相当の記録(有効期間は別途指定)

第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)代表選手選考方針(トラック&フィールド種目及び競歩種目)

期日:2016年8月5日(金)~8月21日(日)

(オリンピック競技大会の全開催期間)

場所:リオデジャネイロ(ブラジル)

公益財団法人日本陸上競技連盟(以下「本連盟」という)は、第31回オリンピック競技大会(以下「リオデジャネイロオリンピック」という)に向けた強化を推進し目標を達成するために、下記の選考方針で選考される日本代表選手で臨む決意である。

1. 選考方法

リオデジャネイロオリンピックの参加資格^{*1}を有した競技者

から、次の優先順位で代表選手を選考する。下記以外の選考及び派遣設定記録^{*2}は、選考要項作成の段階で追記する。

(1)トラック&フィールド種目

- ①第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)(以下「北京世界選手権」という)の8位以内の日本人最上位の競技者
- ②派遣設定記録を満たし、第100回日本陸上競技選手権(2016)(以下「日本選手権」という)の8位以内の競技者
- ③日本選手権優勝者
- ④日本選手権3位以内の競技者

(2)リレー種目

代表選手は、種目の特性から、第3回世界リレー選手権大会(2016)に派遣された競技者の中から選考される。

(3)競歩種目

- ①北京世界選手権の各競歩種目で8位以内の日本人最上位の競技者
- ②派遣設定記録を満たし、指定選考競技会で優勝した競技者
- ③指定選考競技会3位以内の競技者

※日本選手権以外の選考競技会に関する条件は、選考要項作成の段階で追記する。

2. 補足

公益財団法人日本オリンピック委員会の派遣方針、又は国際陸上競技連盟が定める参加資格に準じて、選考方法を変更する可能性がある。

※1 参加資格:IAAFが定めた参加標準記録等

※2 派遣設定記録:本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録(有効期間は別途指定)

第98回日本陸上競技選手権大会(2014/福島)参加資格[参加資格]

2014年度本連盟登録者で、下記の1)から5)のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)。

但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録

表3 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10" 40	10" 50	100m	11" 85	12" 00
20" 85	21" 05	200m	24" 30	24" 60
46" 85	47" 20	400m	55" 00	55" 80
1' 50" 00	1' 51" 30	800m	2' 08" 00	2' 10" 50
3' 48" 00	3' 50" 00	1500m	4' 22" 00	4' 24" 00
13' 48" 00	13' 55" 00	5000m	15' 40" 00	15' 50" 00
28' 28" 00	28' 48" 00	10000m	32' 30" 00	33' 00" 00
14" 00	14" 15	110mH/100mH	13" 80	14" 00
50" 80	51" 10	400mH	59" 00	60" 00
8' 50" 00	8' 55" 00	3000mSC	10' 35" 00	10' 50" 00
2m16	2m13	走高跳	1m75	1m72
5m30	5m20	棒高跳	3m80	3m70
7m70	7m60	走幅跳	6m10	6m00
15m90	15m75	三段跳	12m70	12m50
16m00	15m80	砲丸投	14m10	14m00
50m00	49m50	円盤投	47m00	46m00
63m00	62m00	ハンマー投	54m50	53m50
73m00	71m50	やり投	53m00	52m00
7000	6850	十種競技/七種競技	4900	4700

(注1)記録の有効期間は2013年1月1日~2014年5月18日まで。

(注2)室内競技会の記録も有効とする。

(注3)400m(含ハードル)までの記録は電気時計(写真判定装置)で計測したもののみ有効。

Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。

- 1)2013年度第97回日本陸上競技選手権大会の優勝者(但し、その種目による)。
- 2)2013年1月1日~2014年5月18日までに指定の参加標準記録Aを突破した競技者。
- 3)2014年度の地域選手権が2014年5月18日までに開催された場合は各種目1~3位入賞者で参加標準記録Bを満たした競技者。
開催されていない場合は2013年度の地域選手権各種目1~3位入賞者で参加標準記録Bを有効期間内に満たした競技者。
- 4)本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟強化競技者。
- 5)開催陸上競技協会が推薦し本連盟が承認する競技者。
- 6)但し、エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。

国民体育大会(2016/岩手・2017/愛媛)実施種目

- 1. 参加人数 監督2名、選手29名(男女各々19名以内)
- 2. 実施種目…[○][◎]の種目

表4

種目	2014・2015実施種目							
	男子				女子			
	成年	少年		共通	成年	少年		共通
100m	○	○	○		○	○	○	
200m								
400m	○	○			○	○		
800m	○			○	◎		○	
1500m								○
3000m			○			○		
5000m		○			○			
10000m								
110mH/100mH	○			○	○		○	
400mH	○	○				○		
3000mSC								
3000mW								
5000mW				○	◎			
10000mW	○							
走高跳	○			○	◎			
棒高跳		○						○
走幅跳	○	○	○			○	○	
三段跳				○	○			○
砲丸投			○				○	
円盤投	○			○				○
ハンマー投		○			○			
やり投	○				○			○
4×100mリレー		○				○		

※◎:「成年女子800m」「成年女子5000m競歩」「成年女子走高跳」は、少年女子Aからもエントリーできる。

2014 2015	男子				女子			
	成年	少年		共通	成年	少年		共通
実施種目数	11	8	5	5	10	6	4	4
	1(リレー)				1(リレー)			
合計	55							
2016 2017	男子				女子			
	成年	少年		共通	成年	少年		共通
実施種目数	10	8	4	6	11	5	5	5
	1(リレー)				1(リレー)			
合計	56							

2013年度全国普及育成担当者会議報告

普及育成委員会 森 健一

2013年度全国普及育成担当者会議を、全国47都道府県陸協普及育成担当者参加のもと2013年11月26日(火)13時00分～16時30分、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて開催した。会議は3部構成で行った。

第1部は、強化委員会と合同で実施し、競技者育成プログラム、2020強化普及オリンピック特別対策プロジェクトについて報告がなされた。

第2部は分科会を行い、普及育成事業の概要について説明した。

〈指導者育成関係〉

1. JAAF公認ジュニアコーチ(日体協公認指導員)

養成講習会

2013年度は開催地は10会場(北海道・岩手・福島・福井・埼玉・山梨・和歌山・愛媛・広島・沖縄)であり、昨年度よりも6会場多く、行われる。今後は各地域1会場以上での実施を目指す。

2. JAAF公認コーチ(日体協公認コーチ)養成講習会

今年度は、2013年12月21～24日に実施。

3. 指導者資格有資格者の義務研修

2012年度より日体協公認スポーツ指導者管理システムを各陸協で利用可能なため、各陸協で開催している義務研修に該当する講習会を資格更新のための講習会として申請するよう呼びかけた。

4. U16指導者講習会

千葉・青森・東京・愛媛は終了しており、宮城(2014年2月8日)、熊本(2月22日)が開催予定である。

〈普及関係〉

5. 全国大会の引率資格

全国大会の監督、引率への指導者資格の義務付けについて、現状のルールを説明し、確認した。

6. “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会

第30回大会の要項を提示。次回大会より選手の所属については、小学校名称の使用を認めることを報告した。

7. 第9回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会

2013年10月26～27日に横浜市スポーツ医学センターにて体力や形態計測を実施。交流会は、モスクワ世界陸上代表の山縣亮太選手、飯塚翔太選手を迎え開催した。

8. “日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

第17回大会の要項を提示。2014年12月13～14日に開催予定。

9. JAAF発掘育成プロジェクトクリニック事業

2013年度はU13については9会場、U16については11会場で実施する。

10. U15トップトレーニングキャンプ

2014年1月11～13日に味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催。

11. U16ブロック研修合宿

2013年度から、各地域9ブロック(8会場)で実施。

全体を通しての質疑応答では、小学生、中学生、高校生のU12やU13、U15やU16、U18などの年齢表記に関して、複数の表記では困惑してしまうため統一して欲しいとの意見があった。全国小学生陸上競技交流大会について、選手所属に小学校名の使用を認めることが報告されたが、クロスカントリーリレー研修合宿での要項には明記されていないため、質問がなされた。同じく、使用が認められることが伝えられた。要項への表記に関しては、改めて報告することが伝えられた。

第3部では、グループ別討論を実施した。このグループ別討論は本年度、初めて実施した企画であり、各都道府県陸協の普及育成担当者同士、そして普及育成委員会委員が情報交換する場として設定した。参加者を4グループに分け、各グループでそれぞれの都道府県が独自に実施している取り組み(イベント・企画など)についての発表を行い、まとめ、最後に全体へ報告する形式で行った。以下、第3部でのグループ別討論について主な意見を報告する。

〈グループ別討論〉

- ・日本選手権の開催については、全国で持ち回り開催を希望する声があがった。日本選手権の週を陸上競技普及週間として普及活動にも役立てたい。
- ・かけっこキャラバン(広島)、ダッシュ王選手権(鹿児島)などのイベント企画で、成功している都道府県のモデルを提示して頂きたい。
- ・ジュニアブリッジ育成事業として、小学生と中学生の交流機会をさらに増加させるべき。
- ・小学生と中学生、中学生と高校生の1つ上のカテゴリでの交流だけでなく、小学校と高校生と2つ上のカテゴリでの交流も必要。その際、小学生の指導者不足も挙げられることから、指導者育成のための交流も非常に重要である。
- ・中学校における陸上競技部の設置率は6割程度のため、クラブチームの紹介などのマネジメントを実施。
- ・中体連、高体連だけでなく、将来的には小体連の組織作りも必要となると考えられる。文部科学省との連携の必要性。
- ・他種目からのトランスファーを考えるのであれば、他のスポーツ競技団体との連携も必要となる。

本年度から初めて実施したグループ討論では普及育成委員会として、中央からの連絡事項の伝達に留まることなく、各陸協からの意見を求め、陸上競技連盟として普及活動の方策を考える上で非常に有益であった。以上の他にも貴重な意見が得られ、それを普及育成委員会で検討していくことを報告した。

今後、質問や意見などがある場合は、陸連事務局を通じて検討していくことを確認し、会議を終了とした。

“日清食品カップ” 第16回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会報告

普及育成委員会 井筒 紫乃

本大会は、1985年より開催している「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会の一環として、1999年より始まり16回目を迎えた。全国の小学生がクロスカントリーを通じて走ることの楽しさと正しい技能・トレーニングの習得及びよい友達づくりを目的とし、例年3月に開催していたが、今年度より12月に移行し、2013年12月7日（土）・8日（日）の2日間の開催となった。

第1日目は、大阪府池田市民会館（アゼリアホール）において、全国47都道府県代表チームと地元大阪の3チームを加えた50チーム400名の選手および100名の指導者の参加により、開講式と研修会・監督会議を行った。

14時から開講式を行い、主催者を代表して普及育成委員会普及育成部熊原誠一副部長の挨拶、後援をいただいている池田市小南修身市長の歓迎の挨拶を頂き、開講式は終了した。

開講式後、選手と監督以外の指導者は引き続き大ホールで研修会に参加した。また、監督者会議をコンベンションルームで行った。

研修会は普及育成委員会普及育成部井筒紫乃U13担当幹事と大畑好美委員により日清食品グループ陸上競技部白水昭興監督、アトラントオリンピックマラソン代表の実井謙二郎コーチ、アテネオリンピックマラソン代表の諏訪利成コーチ兼選手への質疑を交えながら講義が行われた。楽しく学ぶことをコンセプトに、クイズ形式で進められ、解答後に詳細な説明が加えられた。その内容の一部・概要は以下の通りである。

1. 小学生の練習によるからだへの負担について

クイズ① 小学生が1日に走る距離は多くて何kmくらいがちょうどいいでしょうか？

①20km ②15km ③10km ④5km

答え ④5km 理由 12歳頃の心臓の大きさは大人の60%であるため

※解答において、①～③10kmに半数の選手が手を上げたことを受け、普段の練習量に対してのガイドライン作成の必要性をあらためて感じた。

クイズ② 毎日の練習で1000m×5本などのインターバル練習は、小学生にとってちょうどいいでしょうか？

①ちょうどいい ②少なすぎる ③多すぎる

答え ③多すぎる 理由 過度な練習は、心臓や骨・筋肉への負担がとて大きいことを、スキヤモンの曲線を事例に挙げながら、神経型と一般型ではその発達過程が異なるなど、①すべての器官は同時に大きくなる、②からだの器官の発達や速さが異なる、③12歳頃は脚部の発育がもっとも大きい時期であり、弱く傷つきやすいので注意をする必要がある、との説明があった。

2. ジュニア選手の食事の基本について

クイズ③ 長距離選手にとって大事な栄養は「炭水化物」という栄養素です。どのような食品を食べればよいでしょうか？

①「野菜」 ②「お肉」 ③「お魚」 ④「ごはん」「パン」「めん類」

答え ④ 理由 エネルギーを作る役割があるため。

クイズ④クイズ⑤では、運動量に見合うエネルギーと各栄養素の大切さと栄養バランス及び「主食」「主菜」「副菜」「牛乳/乳製品」「果物」を含めた食事を食べることの必要性についての講義とクイズが行われた。

3. 様々な運動をすることの大切さについて

クイズ⑥ 現在、トップ選手の中で子供の頃に多かったのはどのタイプ？

① ゲームばかりしていた ② 走ることにだけに専念していた
③ 走る事も好きだけどほかのスポーツ種目もやっていた

答え ③ほかのスポーツもやっていた

実井謙二郎コーチ、諏訪利成選手兼コーチの、子ども時代の経験談を含めながら進められた。両選手は、「小学生時代はサッカーや野球をしたり、鬼ごっこなど外で遊ぶことが好きであった」と、多様な運動経験の大切さを強調していた。

後半にはコーディネーション能力養成の事例として「ジャンケンゲーム」を行った。最後に「1500m男女の中学日本記録」についての質問が出された。

監督会議では、主催者の挨拶の後、主管・大阪陸上競技協会から大会の運営についての説明があった。プログラムに記載している監督・競技者注意事項にそって、コースの説明、スパイクシューズの使用禁止、ウォーミングアップ場の確認など、事故が無く、スムーズな競技運営のために入念な打合せを行った。

研修会終了後「インスタントラーメン発明記念館」への移動となった。記念館では担当者の熱心な説明を聞くなど、興味関心を持ちながら見学していた。

第2日目は場所を万博記念公園内特設コースに移し、クロスカントリーリレー大会を開催。好天に恵まれ、大阪陸協の会場管理係の皆様の入念な準備と運営にて実施した。

開会式は、主催者を代表して横川浩会長の挨拶、後援をいただいている協賛者を代表して日清食品ホールディングス株式会社代表取締役副社長・COO中川晋氏の挨拶、そして参加者を代表して北海道・旭川AC大熊健斗君、栃谷和さんによる力強い宣誓があり、開講式を終了した。

11時に女子友好タイムトライアル、11時10分に男子友好タイムトライアルがスタートした。実井謙二郎コーチ、諏訪利成選手兼コーチもそれぞれのレースに参加して小学生と一緒に走った。

11時20分に第1走者が一斉にスタートし、男女3名ずつ計6名の選手によって襷リレーを行い、昨年2位の雪辱を果たした愛知県代表の岡崎JACが優勝した。また、優勝した岡崎JACと2位の腰越JSCは同タイムであった。

レース終了後、12時30分から表彰式を行い、入賞チームと区間最高記録賞の選手を表彰した。

〈入賞チーム成績〉

順位	チーム名	都道府県	記録
第1位	岡崎JAC	愛知	31' 03"
第2位	腰越JSC	長野	31' 03"
第3位	井村RC	岡山	31' 09"
第4位	チーム柏	千葉	31' 11"
第5位	A.C.TOYAMAJr.	富山	31' 20"
第6位	旭川IAC	北海道	31' 21"
第7位	みらいクラブ	茨城	31' 33"
第8位	花巻ACJr.	岩手	31' 39"

〈区間賞〉

第1走者	第2走者	第3走者	第4走者	第5走者	第6走者
長谷川綸首	工藤 竜二	久保田純乃	生田 琉海	谷口 知穂	藤田 健人
KJR	東英RC	腰越JSC	阿南JAC	A.C.TOYAMAJr.	A.C.TOYAMAJr.
東京	青森	長野	徳島	富山	富山
5'09"	4'51"	5'12"	4'45"	5'11"	4'58"

後援・協賛の各団体と主管いただいた大阪陸上競技協会の皆様により感謝申し上げます。

なお、大会の全記録は日本陸連ホームページをご覧ください。

日本陸連 アスレティック・アワード2013 報告

事務局

7回目を迎えた日本陸連アスレティック・アワード2013

2013年12月17日(火)に「日本陸連アスレティック・アワード2013」を京王プラザホテルにおいて開催しました。2007年に発足した本催事も今回で7回目を迎え、年末の恒例行事として定着してきました。

今年も日本選手権優勝選手、世界選手権入賞選手計49名に、スポンサー各社、各大会の共催メディア社、本連盟関係者そして、取材メディア社を含め、全235名の皆様のご出席を賜り、華やかな式典となりました。



主催者を代表して挨拶する横川浩会長

式次第

1. 主催者挨拶	横川 浩	公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
2. 来賓挨拶	石原 俊爾	株式会社TBSテレビ 代表取締役社長
3. アワード表彰の部		
特別賞	発表者 尾縣 貢	公益財団法人日本陸上競技連盟 専務理事
	授与者 尾山 基	株式会社アシックス 代表取締役社長 CEO
新人賞	発表者 友永 義治	公益財団法人日本陸上競技連盟 副会長
	授与者 田原 和宏	東京運動記者クラブ 陸上分科会 代表幹事
優秀選手賞	授与者 友永 義治	公益財団法人日本陸上競技連盟 副会長
	発表者 三宅 勝次	公益財団法人日本陸上競技連盟 副会長
アスリート・オブ・ザ・イヤー	授与者 三宅 勝次	公益財団法人日本陸上競技連盟 副会長
	発表者 横川 浩	公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
4. 歓談の部	授与者 横川 浩	公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
	乾 杯 竹田 恒和	公益財団法人日本オリンピック委員会 会長
トークセッション	*日本記録樹立選手 インタビュー 海老原有希選手・鈴木雄介選手	
	*伊東浩司強化委員会男子短距離部長／ 桐生祥秀選手 インタビュー	
5. 閉 会		

以上

2013年受賞者：

アスリート・オブ・ザ・イヤーは富士加代子選手

2013年のアスリート・オブ・ザ・イヤーに輝いたのは、先の世界選手権の女子マラソンで銅メダルを獲得した富士加代子選手(ワコール)。笑顔のフィニッシュで、日本中に大きな感動を届けてくれました。

優秀選手賞には、同じく世界選手権女子マラソンで、ロンドンオリンピックの雪辱を果たし、4位に入賞した木崎良子選手(ダイハツ)、男子棒高跳で日本勢過去最高となる6位入賞の山本聖途選手(中京大学)、さらに6月の日本選手権10000mで圧巻の走りで優勝を果たし、世界選手権でも世界の強豪を相手に最後まで積極的なレースを展開し、見事5位に入賞した新谷仁美選手(ユニバーサルエンターテインメント)を選出しました。

今年の世界陸上競技への社会的関心を大いに盛り上げた高校生、桐生祥秀選手(洛南高校)は特別賞と新人賞(東京運動記者クラブ選出)のダブル受賞。更に東京運動記者クラブ選出の新人賞・女子選手には、日本選手権でジュニア日本記録を更新し、日本歴代2位の記録で優勝した浜松市立高校の杉浦はる香選手が、本連盟の新人賞には、世界選手権20km競歩で日本選手としては史上最年少で6位入賞を果たした西塔拓己選手(東洋大学)が選出されました。

各選手の受賞スピーチ

特別賞：桐生祥秀(洛南高校)

「今日は特別賞という素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。今年4月29日の織田記念陸上は自分にとって本当に思い出に残る大会で、10秒01という記録は出るとは思っておらず、自分でもびっくりしました。この記録を出してから、周りの人にも期待されて、もっともっと頑張りたいと思って、陸上をより一層楽しめるようになりました。2014年も頑張っていきますので、皆さん応援をよろしくお願いいたします。」



桐生祥秀選手

新人賞：杉浦はる香(浜松市立高校)

「今日はこのような新人賞という賞を頂いて、すごく嬉しいです。ありがとうございます。来年は日本だけではなく、世界を舞台にも活躍できるような選手になって、皆さんの期待に応えられるような走りしたいと思います。皆さん、応援よろしくお願いいたします。」



杉浦はる香選手

新人賞：桐生祥秀(洛南高校)

「今日は特別賞と新人賞の2つの賞を頂き、ありがとうございます。来年は、一緒に新人賞を受賞した西塔選手が、大学の先輩になるので、西塔選手を目標に、世界でも個人で戦えるように頑張りたいと思います。応援よろしくお願いいたします。」

新人賞：西塔拓己(東洋大学)

「今日は新人賞という大変光栄な賞を頂き、ありがとうございます。」

います。この賞は本当に特別な賞だと思っているので、今後ともこのような賞を頂いたことを誇りに思って、競技を続けていきたいと思っています。来年は、桐生選手が後輩となります。桐生選手の挨拶の中で、西塔選手に負けなようにと言っていたのですが、逆に自分のほうが、桐



西塔拓己選手

生選手を目標に、お互いに今後のアジア選手権や世界選手権やリオデジャネイロオリンピックに出場できるよう切磋琢磨していきたいと思っています。本日はありがとうございました。」

優秀選手賞：木崎良子（ダイハツ）

「本日はこのような大変名誉ある賞を頂き、ありがとうございます。まさか自分が選んでもらえるとは思っていなかったのので、今、足が震えて何を話してよいかわかりませんが、一緒に辛い練習を頑張ってきたチームメイトや、わがままを言っても指導してくれるダイハツのスタッフの皆さん、また本当に皆さんの応援してくれている方々がいて、ここに立てていると思います。また今回、世界選手権前に福士選手や野口選手と一緒に合宿する機会があり、その中ですごく刺激を受けることができたことで、自分が成長したと思っています。今後は皆さんのあこがれになるような、福士選手や野口選手のような選手に成長していきたいと思



木崎良子選手

います。これからは走らせてもらえることに感謝し、一番は自分が走ることを楽しんで努力していきたいと思っています。本日はありがとうございました。」

優秀選手賞：山本聖途（中京大学）

「本日は優秀選手賞という素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。今年日本選手権、世界選手権、ユニバーシアード、東アジア大会のすべての大会で自分の納得するような結果を残すことができました。それも周りの方々のサポートのおかげだと思っております。また今年の結果に満足することなく、これからも一日一日を大切



山本聖途選手

にして周りの方々への感謝の気持ちを忘れず日々精進していきたいと思っています。今年以上の結果を残せるように来年以降も頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくをお願いします。ありがとうございました。」

アスリート・オブ・ザ・イヤー：福士加代子（ワコール）

「本日はこのような栄えある賞をいただきまして、本当に嬉しく思います。入社した時は12~13年も走ると思っていたのですし、アスリート・オブ・ザ・イヤーという一番になるような賞を頂けるような選手ではなかったのですが、こんなふうにやり続けられたというのは、周りの環境があった

からです。実業団という会社のバックアップがあり、プロでもアマでもなく特別枠で頑張らせて頂いて、すごく恵まれていると感じています。陸上競技というのは昔からの歴史があり、世界から愛されている競技なのだと改めて思うところがあります。色々なスポーツ界に知り合



福士加代子選手

いがありますが、陸上のように連盟があるという環境は、恵まれていると思います。オリンピック競技ではない種目はハングリーな環境でやっているのを見ているのもあり、陸上競技はハングリー精神がないと言われてはいますが、恵まれた環境の中で、大いに頑張れるというのは陸上競技の強さだと思っており、サポートがあるおかげで、今回メダルがとれるまで、やり続けられたのだと思っています。また、日本陸連のサポートが本当に大事だなと感じました。これからも若い選手が出てきますが、諸先輩方のお力が大事だと思います。これからもご支援のほど、よろしくお願ひします。2020年の東京オリンピックは、年齢的にいったら若くはないかもしれないですけど、若さは年齢ではないという言葉があるように、目の輝きその人の行動力、意志力、向上心が若さだと思いますので、これからも向上心を持って、目の輝きを大きくして、活躍していければいいなと思います。桐生選手たちは本当に若いですが、私も7年後はきっとまだ輝いていると思いますので、日々向上心を持って、普段から努力をしていきたいと思っています。本日はいらっしやっている室伏選手のように、まだ競技をやっていたらっしやる先輩もいらっしやいますし、30代の選手も多く活躍しています。そのような選手に追い付き追い越さないと室伏さんも辞められないと思いますので、年上・年下・隣同士のライバルと切磋琢磨して陸上界を盛り上げていきたいと思っています。私は日本選手権を世界選手権のように、観客でいっぱいにして、その人た



アスレティック・アワード2013受賞者

国際陸連 (IAAF) カウンシル会議報告

国際委員長 田中 克之 (国際陸連 カウンシル)

2013年最後のIAAFカウンシル会議が11月14、15の両日モナコで開催されたところ同会議の概要は次の通りである。

今回のカウンシル会議では特別に大きな討議テーマはなかったが主要ポイントは、つぎの5点であった。

- (1) 世界室内選手権の開催地が2016年は米国のポートランド、2018年は英国のバーミンガムに決まったこと
- (2) 2016年の世界ジュニア選手権はロシアのカザン開催の方向で調整が行われることになったこと
- (3) 新たに発足するマスターズ・コミッションのメンバー8名が決まり、室伏重信氏もその一人に選ばれたこと
- (4) 2014～17年のITO (国際技術委員) 46名が決まったがアジアからはこれまでで最大の5名が選ばれ、日本の関幸生氏も含まれること
- (5) IAAFワールドチャレンジの15大会についてのIAAF事務局作成のランキングが配布され東京は15都市中10番目の位置づけであること

1. 陸上競技殿堂

2012年のIAAF 創立100周年を記念して設立された「陸上競技殿堂」には既に24名のアスリートが殿堂入りしているが今回のカウンシル会議で新たに12名が候補として提示され承認された。正式承認は2015年の北京総会で行われる。殿堂入りの3要件は①オリンピック又は世界陸上で2個以上の金メダル②世界記録の樹立③引退後10年経過である。

2. 市民権の変更

2013年8月以降に申請のあった選手12名の市民権変更が承認されたが、9名が中東のバーレーンへの変更であったため、複数の理事から質問があったが、事務局より「現行のルールに則っている」との説明があった。

3. コミッション委員の任命

①マスターズ・コミッションメンバーの任命

2011年のIAAFテグ総会で「選挙で選出されるマスターズ委員会は2年で解消し、指名によるコミッションに改組する」ことが決定されていた。今回の会議でディアック会長から8名の委員が指名され異論なく承認された。なお、マスターズ委員会委員でもあった日本の室伏重信氏も委員の1人となった。

②倫理コミッション委員

本年8月のIAAFモスクワ総会で、新しい倫理規定を2014年1月1日から発効させることが決定された。同規定に設置が定められている倫理コミッション委員メンバーが今回の会議で任命される予定であったがディアック会長からの要請で延期となった。

4. 今後のIAAF主催大会開催地

①2016年世界ハーフマラソン

唯一の立候補都市であった英国のカーディフでの開催を決定した。

②2016年世界室内陸上選手権

米国のポートランドと英国のバーミンガムが立候補したが、結局、2016年はポートランド、2018年はバーミンガムで開催することを決定した。

近年IAAFでは有望な候補都市が2つある時には、2大会の開催地を同時に決めてしまう傾向が見えるが、これは「有望な候補都市を失わない」という意味では悪いことではないが、後の大会 (今回の例では2018年大会) に立候補することを検討する可能性があった他都市の権利を事前に奪うこと

になってしまうことに留意すべきではないかと思われる。

③2016年ワールドカップ競歩

唯一の立候補都市は2008年同大会を開催したロシアのチェボクサリであったが、2016年のみならず2018年、2020年の連続3大会開催を希望した。カウンシルは協議の末、2016年と2018年の連続2大会の開催を同市に認めることを決定した。

④2016年世界ジュニア選手権

事務局より「ロシアのカザンが立候補しているが、政府保証が未到着であるので到着後再度カウンシルに諮りたい」との発言があり了承した。

5. 2014年開催大会

①進捗状況報告

2014年開催の「世界室内選手権 (ソボット)」「世界ハーフマラソン選手権 (コペンハーゲン)」「ワールドカップ競歩 (太倉)」「世界リレー (ナッソー)」「世界ジュニア (ユージーン)」についての進捗状況報告がありカウンシルはこれを承認した。

②パーミット大会

(イ) 2014年の「IAAFラベル道路競走」「IAAFダイヤモンドリーグ」「IAAFワールドチャレンジ/ハンマー投チャレンジ」「IAAF混成競技チャレンジ」「IAAF競歩チャレンジ」の競技カレンダーが承認された。

(ロ) 上記のうち、東京を含むワールドチャレンジについてはランキングが配布された。これは「大会結果」と「参加選手」の二つの要素で全15大会を採点しランク付けしたものである。東京は大会結果で10位、参加選手で13位であった。

③世界リレー参加標準記録

世界リレーの内4×100m、4×400mについては次の通りの参加標準記録を設定することが承認された。

	男子	女子
4×100m	38.90	43.80
4×400m	3:04.10	3:33.00

6. 2014～17年のITO承認

IAAFは主催大会に派遣するITO (国際技術委員) の公正な選定手続き並びにITO及び同候補者の質的向上を目的としたセミナーを開催し併せて、選定試験を2013年10月に実施した。

このセミナー及び試験には6地域、44か国から66名が参加した。IAAFの幹部会 (副会長以上で構成) は2014～17年ITOとして46名の合格者を承認し、派遣する大会リストを作成した。46名の内17名は新人、8名が女性 (前回より3名増) である。地域別にはアフリカ2名、アジア5名、南米3名、ヨーロッパ25名、北中米・カリブ6名、オセアニア5名である。

7. その他

ガブリエル事務局総長から次の説明があった。

①IAAF本部事務所の移転

現在のIAAF本部は3つの建物に分かれているが、明年には統合し、新しいビルに入居の見込みである。

②社会貢献プロジェクト「Athletics Better World (ABW)」の実施

IAAFは、2014年にABWを実施する予定である。これは市民参加の道路競走、キッズアスレティックス、グリーンプロジェクトなどをツールとして「健康 (増進)」「環境 (保全)」「社会的包摂」「平和 (構築への貢献)」を図ろうとするものである。

③World Running.comサイトの立ち上げ

明年3月の世界ハーフマラソン選手権 (コペンハーゲン) にあわせIAAFはランニングに特化したサイトを始動させる。

大会観戦ガイド

第33回大阪国際女子マラソン大会 兼第17回アジア競技大会(2014/仁川) 代表選手選考競技会

- ▼日時：2014年1月26日(日) 12時10分スタート
- ▼会場(スタート・フィニッシュ)：
大阪・大阪市長居陸上競技場
大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL：06-6691-2500
- ▼コース：長居陸上競技場～昭和町～今川2～大池橋～
勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪市役所～御堂筋・
道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大阪城公園
～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和町～長居
陸上競技場(42.195km)
- ▼アクセス：大阪市長居陸上競技場
市営地下鉄御堂筋線「長居駅」、JR阪和線「長居駅」
または「鶴ヶ丘駅」下車
- ▼テレビ放送予定：関西テレビ系(全国ネット)
1月26日(日) 12時00分～
- ▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局
TEL：06-6633-9632
- ▼大会ホームページ：<http://www.osaka-marathon.jp/>

2014日本ジュニア室内陸上競技 大阪大会

- ▼期日：2014年2月8日(土) 10時00分競技開始
2月9日(日) 9時30分競技開始
- ▼会場：大阪・大阪城ホール
大阪市中央区大阪城3-1 TEL：06-6941-0345
- ▼アクセス：JR大阪環状線大阪城公園駅下車西へ徒歩5分
- ▼競技種目：
2月8日(土)
中学生の部 男子 60m 60mH 走幅跳 棒高跳
女子 60m 60mH 走幅跳
ジュニアの部 男子 60mH 三段跳/女子 60mH



2月9日(日)

中学生の部 男子 800m / 女子 800m
ジュニアの部 男子 60m 1500m 走高跳 棒高跳
走幅跳
女子 60m 1500m 走高跳 棒高跳
走幅跳

- ▼問合せ先：大阪陸上競技協会
TEL：06-6697-8899
- ▼大会ホームページ：
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1102/>

第49回千葉国際クロスカントリー大会 兼第12回アジアクロスカントリー選手権大会 日本代表選手選考会 兼第19回世界学生クロスカントリー選手権大会 日本代表選手選考会

- ▼期日：2014年2月9日(日)
- ▼会場：千葉・千葉市「昭和の森」
千葉市緑区土気町22 TEL：043-294-2884
- ▼アクセス：JR土気駅下車千葉中央バス「大網駅行」
で「昭和の森」下車(当日土気駅北口～昭和の森無料
臨時バスの便あり)
- ▼種目・スタート時刻

中学の部	女子 3km	10時40分
	男子 3km	11時00分
ジュニアの部	男子 4km	11時20分
	男子 8km (選考種目)	11時50分
	女子 5km (選考種目)	12時40分
一般の部	男子 12km (選考種目)	13時10分
	女子 8km (選考種目)	14時00分
	男子 4km	14時40分

- ▼問合せ先：千葉陸上競技協会
TEL：043-252-7311
- ▼大会ホームページ：
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1103/>



JAAF
TOCHIGI

一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152 宇都宮市西川田5-4-18 コーポグランデ西川田駅前ビル103
TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
http://www.jaaf Tochigi.jp/

今年度は、国民体育大会・全国インターハイにおいて、佐野日大高校の中島大輔選手が走高跳で2冠を達成し、全国中学校大会では佐野北中学チームが4×100mリレーで優勝、全国小学生交流大会では、福田真夢選手が走幅跳で優勝いたしました。

さらに東日本女子駅伝においては、本県初の準優勝を獲得することができました。

全国都道府県対抗女子駅伝では、日本を代表する赤羽有紀子選手（ホクレン）と渋井陽子選手（三井住友海上）が、チームの一員となったことで、中学生・高校生・大学生選手の心の支えとなり、育成・強化に貢献していただきました。応援していただいた県民の皆様にとっても、心温かいときを過ごせたものと実感いたしました。

11月には、本県においても、高校は佐野市で、中学校は那須塩原市で、共に関東駅伝大会が行われ、天候にも恵まれ終了することができました。

広報誌については、第1回・2回と発行し、その反響がありがたいほど多く、これからの広報誌発行に心強いところです。

2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり、2022年には、第77回国民体育大会が本県で内々定となり、これを機に栃木陸協も競技運営の充実および競技力の向上に最善を尽くしていきたいと考えています。

(文責：事務局 小針文哉)

JAAF
SAITAMA

一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30
埼玉県上尾運動公園陸上競技場気付
TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
http://sairiku.net/

10月4日より8日まで東京の味の素スタジアムにて開催されました第68回国民体育大会において、天皇杯4位という結果を得ることができました。本県選手団がそれぞれの種目において健闘しましたことを選手団一同今後の自信にするとともに、本県の競技力向上に大きく寄与するものと確信しております。入賞含め、特に、少年女子A 100m・土井杏南選手（埼玉栄高）、少年男子共通800m・服部純哉選手（坂戸西高）、少年女子共通棒高跳・生島弥歩選手（越谷南高）、少年男子共通5000m競歩・榎澤湧希選手（所沢西高）、成年少年男子共通4×100mリレー・五十幡亮汰選手（行田長野中）・小林将一選手（東洋大）・三田真也選手（早大本庄高）・藤光謙司選手（ゼンリン）が優勝という結果となりましたことは非常に喜ばしいことであります。

11月3日には本県で毎年恒例の東日本実業団駅伝が男女ともに開催され、全日本への出場権をかけてレースが行われました。男女ともに本県からも実業団チームが力強いレースを展開し、全日本出場権獲得のチームの力走を祈念しております。

最後に11月10日に福島県で開催の第29回東日本女子駅伝において、本県チームは総合7位という結果を得ることができました。第1区の出場選手（バナソニック）が区間賞の走り流れを作り、その後の9区まで粘りのレースを展開しました。今後行われます都道府県駅伝において、男女ともにトップ争いに加わりながら存在感を示すことができるよう、邁進していきたいと思っております。

(文責：総務 内住祐介)

JAAF
GUNMA

一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店 気付
TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
http://gold.jaica.org/gunma/index.html

写真は、6月30日、群馬県陸上競技選手権大会2日目において平成25年度群馬陸上競技協会諸表彰受賞者の集合写真です。長きにわたり群馬陸協に貢献された皆様の功績を讃え記念品を贈呈いたしました。また、東京国体の会場では、元東京農業大学第二高等学校陸上競技部監督の鳥羽完司氏が、秩父宮章を受章されました。

国体においては、男女総合10位・女子総合5位と、女子は入賞を果たしました。しかしながら、少年男子A・Bで入賞0に終わり、今後の選手強化に大きな課題が残りました。

**JAAF**
CHIBA

千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/

現在、一般財団法人千葉陸上競技協会の設立に向けて準備をすすめております。10月の臨時理事会において定款の承認を受け、12月の加盟団体代表者会議で新役員が決定いたしました。今後は、正式な手続きを経て本年度内設立の見通しとなりました。

駅伝やロードレースのシーズンになり、11月10日の東日本女子駅伝で本県チームは、中盤から追いつける見事なレース展開で優勝を果たしました。永年にわたり組織的に強化を図った成果であり、これを弾みに男女の全国都道府県対抗駅伝へと続けたいものです。

2月には昭和の森で、第49回千葉国際クロスカントリー大会を開催します。毎年全国から大勢の選手に出場して頂いておりますが、選手や観客の皆様満足して頂ける大会になるよう更に競技運営に努めたいと考えております。皆様のお越しをお待ちしております。

(文責：総務委員長 市東和代)





陸協NEWS

JAAF TOKYO

公益財団法人東京陸上競技協会

〒160-0021 新宿区歌舞伎町1-28-3 武井ビル4F
TEL.03-3203-6123 FAX.03-5292-0196
<http://www.toriku.or.jp/>

2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、開催地の東京陸協としては、東京都、日本陸連との連絡を密にし、最高の大会になるよう準備を進めて行きたいと思えます。

2013年のトピックスとして、長年の夢であった公益財団法人東京陸上競技協会として2013年7月1日から事業運営を開始しました。また東京国体では、大会の成功と共に男子総合、女子総合の完全優勝を果たしました。大会には、全国から130人を超す視察員の方々も来られ激励をしていただきました。

2020年に向けて競技者の発掘・育成・強化事業をさらに進め、東京育ちのオリンピック選手の活躍を期待すると共に蓄積された競技運営の技に磨きをかけ、役員一同頑張ります。

1964年東京オリンピックのメイン会場であった国立競技場（千駄ヶ谷）は5月をもって使用できなくなり、新国立競技場の建設に入ります。完成予定の2019年まで陸上競技の聖地は一時お休みとなります。翌年の2020年が輝く日本陸上界になるように今から期待しています。

(文責：常務理事 有澤政雄)

JAAF YAMANASHI

一般財団法人山梨陸上競技協会

〒400-0024 甲府市北口2-14-14 山梨文化会館東館内
TEL.055-251-4581 FAX.055-251-4581
<http://yamanashitf.web.fc2.com/>

12月22日京都で行われた全国高校駅伝大会において、西京極陸上競技場トラック上4人が競い合うという史上まれに見る大接戦の戦いを1秒差で制した山梨学院大学附属高校男子が日本一という偉業を達成してくれ、山梨県民はじめ陸上ファンに大きな夢と感動を与えてくれました。また山梨学院大学附属高校女子も県勢初の6位入賞を果たし山梨陸上界に新たな歴史を刻んでくれました。

選手たちは「日本一」を合言葉に、常に礼儀正しさを重んじ、日々の生活をしっかりとすること、基本を徹底することなど選手自身が自覚し、仲間を信じ厳しい練習を積み重ねながら築いた団結力、総合力で勝ち取った成果を発信してくれました。これからの山梨陸上界の方向性、アスリートの心構えをしっかりと示してくれたように感じます。

折しも来夏山梨で開かれるインターハイに向けて山梨陸協と高体連陸上部は特別強化選手21人、強化選手68人を指定し、本年度中に4回の合同強化合宿や練習会を行い地元開催に備えています。目標としてはインターハイ出場者20人以上、入賞者5人以上とし、「山梨はひとつ」の合言葉のもと一致結束し、山梨学院大学附属高校が成し得た栄冠に学び前進して行きたいと思っています。また、参加される他都道府県からの選手の皆様や、応援として来県される多くの方々にも気持ち良くご参加いただけるようにおもてなしの心を持った「真心のある大会」を運営できるように準備を整えて参りたいと思っています。

(文責：専務理事 保坂一仁)

JAAF KANAGAWA

一般財団法人神奈川陸上競技協会

〒231-0012 横浜市中区相生町1-18 光南ビル5F-B
TEL.045-210-9660 FAX.045-210-9667
<http://www.kanagawariku.org/>

神奈川で全国小学生陸上が開催されたことによって、神奈川陸協の役員全員が全国レベルの小学生陸上を直視しました。想像以上のレベルの高さと共に、練習内容や指導方法への疑問も実感することとなりました。普及部では元々早すぎる強化練習には疑問を持っておりましたので、これを後押しするかのごとく、普及と強化が一つの委員会になり、小学生から中学生また大学生・一般まで連携した指導体制で、発育を見守りながら一貫性・継続性のある長期的な指導を目標とすることで意思統一することが可能になりました。

本県は小学生陸上クラブチームへの対応だけで実施しているので、各クラブの指導者は教員のみならず様々な方がおります。指導理念・知識量・指導技術も色々でしたが、普及部員を多方面（地区・キャリア）から集め、巡回陸上教室を年3回各地で実施したこと、合同練習会、合同指導者研修会を毎年実施してきたこと等で、どのクラブにおいても勝利至上主義は殆ど無くなりました。

普及活動では指導者の育成が最重要課題です。指導者数を増やすための育成と指導者個々の質を向上させるための両面が必要であると考えています。

JAAFジュニアコーチの資格取得を奨励する一方、強化部との連携、中体連や高体連との連携の中で互いに学びあい理解しあい、即戦力の養成ではなく、やがて神奈川を代表する選手、日本を代表する選手を一人でも多く育てることが普及部の使命であると考えています。

(文責：強化普及委員会普及部長 瀧川一輝)

JAAF NIIGATA

一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933 新潟市中央区清五郎67-12
東北電力ビッグスワンスタジアム内
TEL.025-257-7636 FAX.025-257-7691
<http://www.nrkk.net/>

昨年から検討してまいりました新潟陸協の新しい旗ができました。闘志を持って競技するというので、走る人を赤で中央に配置し、新潟の自然を表すため鳥の羽を緑で、海と稲穂と朱鷺の羽をイメージした図柄を人の足元に配置しました。この旗を掲げ、来季も全国各地で新潟の競技者が数多く駆け巡ることと思います。どうぞよろしくお願いたします。

また、この度、第99回日本陸上競技選手権大会の新潟開催が決定いたしました。11月には3回目の準備委員会が行われ、総務部佐藤良司部長・庶務部小柳部長・審判部星野利朗部長・競技部小杉仁部長・広報イベント部大野公彦部長・会計部巻口実部長から、それぞれの業務内容の説明と確認がなされました。競技者がベストパフォーマンスを発揮できることはもちろんですが、ご来場の皆様にも大いに楽しんで頂けるようにと考えております。どうぞご期待下さい。



NIIGATA

事務局からのお知らせ

◆◆ナショナルリレーチーム発足。チームの愛称を募集します!◆◆

12月2日に発足したナショナルリレーチームの愛称を募集することになりました。4人の選手が1本のバトンをつないで戦うリレー競技。応援してくださる皆さんの想いを愛称に込めて、選手たちへ届けてください! 応募は個人でも、またクラブや部活動等団体でも受け付けます。たくさんのご応募をお待ちしています!

【募集期間】 2013年12月26日(木)～2014年2月10日(月)

【募集内容】 男子チーム、女子チームの愛称。男女それぞれで応募を受け付けます。

【募集方法】 日本陸連オフィシャルWebサイト (<http://www.jaaf.or.jp/fan/>) の、応募用特設ページからご応募ください。
(<http://www.jaaf.or.jp/fan/news/2013/relaynickname.html>)

【選考】 ご応募頂いた案をもとにチームメンバーが選考いたします。

*第三者が著作権等の権利を有している案は対象外とさせていただきます。

【応募資格】 個人でも、またクラブや部活動等団体名での応募も受け付けます。

【賞品】 ご応募を頂いた全ての方・団体から抽選で下記の賞品を差し上げます。

- ナショナルチーム 選手複数名のサイン入特製バトン (10名)
- プラクティスシャツ・タオルのセット (5名)
- 遠征バック・ベンチタオルのセット (10名)

*愛称の発表は、3月末頃を予定しています。 *採用された愛称に関する著作権、その他一切の知的財産権は本連盟に帰属します。

◆◆マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条◆◆

全国各地でマラソン大会が開催され、マラソンシーズン真っ盛りを迎えておりますが、レース参加に当たっては、下記、「マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条」をよくお読みの上、ご参加ください。

1. 普段から十分な栄養と睡眠をとりましょう。
2. 喫煙習慣をやめましょう。
3. メディカルチェックを毎年受けましょう。
4. 生活習慣病がある方は、かかりつけ医とよく相談しましょう。
5. 計画的なトレーニングをしましょう。
6. 気温、湿度に適したウェアの着用と、適切な水分補給をしましょう。
7. 胸部不快感、胸痛、冷や汗、フラツキなどがあれば、すぐに走るのを中断しましょう。
8. 足、膝、腰などに痛みがあれば、早めに対応しましょう。
9. 完走する見通しや体調に不安があれば、やめる勇気を持ちましょう。
10. 心肺蘇生法を身につけましょう。

また、本連盟ウェブサイト・医事委員会のページに「市民マラソン・ロードレース申込み時健康チェックリスト」を掲載しています。

<http://www.jaaf.or.jp/medical/healthcheck20130411.pdf> こちらもお読みの上、ご参加ください。

陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 三宅 勝次 (陸連副会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 原田 康弘 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 森 泰夫
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 本田香代子
- 森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>